

### まちなか再生 Q & A

**Q** まちなか再生はコンパクトシティに基づいた政策といわれていますが、コンパクトシティって何でしょうか？

**A** 都市を拡大して居住できる地域を増やし、人口を増やすというこれまでのまちづくりを見直す考え方で、将来を見据えて、人口減少、高齢化に対応した都市計画を行うことです。その推進手法の一つとしては、まちなかに公共施設や住宅を整備することなどがあげられます。

**Q** すでに拡大している都市をコンパクトにできるのですか？

**A** コンパクトシティ論は現実の都市形態を圧縮するのではなく、今後の都市計画の方針において、公共施設の配置や交通計画において都市拡大の政策を取らないということやライフスタイルを変革するというものです。

**Q** 人口減少、高齢化が進行する中で、このまま都市機能が分散すると市民サービスが低下するってどういうこと？

**A** 人口減少、高齢化の進行により、将来の市の税収減は避けられません。また、道路や公園、上下水道などの都市維持管理コストは高まり、社会保障関係費は増大します。今後はこれらを考慮し、都市経営の観点からまちづくりを進めなければ、財政悪化により十分な市民サービスを行えないことになります。

**Q** 郊外に住む人の切り捨てにはなりませんか？

**A** まちなか再生は、市民全員のまちなか居住を目指すのではなく、中心部に利便性の高い空間を整備し、中心部とそれ以外の拠点を結ぶ公共交通ネットワークを強化するため、郊外の切り捨てにはなりません。中心部に居住しなくても、公共交通と徒歩で、車に依存しない生活を送ることができる仕組みづくりであり、高齢者に優しく歩いて暮らせるまちづくりといえます。



昭和50年代初めの駅前本通りの風景



昭和47年の一条通り商店街の風景

化の進展により、生活の移動に不安を抱える高齢者が増加することが予想され、その対応も必要になります。今後、誰もが安心、快適に生活できるように、都市機能が充実したまちなかとそれぞれの生活拠点を結ぶ公共交通のあり方を見直し、利便性が高く、持続可能な公共交通体系の確立を目指します。

### 今後の取り組み

これまででは商業振興を中心にまちなか再生を行ってきましたが、人口の増加による市街地の拡大整備に加え、車社会の進展による商業施設の郊外立地、消費者ニーズの多様化などにより、まちなかの衰退は変わら

### まちなか再生のメリット

駅周辺をまちの中心として商業集積が進み、まちなかに賑わいと活気があふれました。しかし、現在の駅周辺は、東西への住宅街の拡大による居住人口の減少や都市機能の郊外への分散、車社会によるライフスタイルの変化、大型店の相次ぐ撤退などにより、苦小牧の「まちの顔」としてのまちなかは失われつつあります。

- | まちなか再生のメリット |  |
|-------------|--|
| ①           | 居住、商業、福祉、病院、行政などさまざまな都市機能が集積し、まとまった市民サービスを提供できる          |
| ②           | さまざまな都市機能が身近に備わっており、高齢者にも暮らしやすい生活環境の提供が可能である             |
| ③           | 既存の都市基盤確保とともに公共交通ネットワークの拠点として整備されているため、地域の核として機能できる      |
| ④           | 既存の都市基盤が蓄積されていることから、それらを有効活用し、各種の投資をすることにより、投資の効率性が確保できる |
| ⑤           | さまざまな都市機能が集積し、人々が暮らす地域の交流拠点としての機能となる                     |

れます。

### まちなか再生の基本方針

まちなか再生の施策は次の基本方針に従って推進します。

#### ① まちなか居住の推進

人の居住がまちが成り立つ基本条件です。まちなかに賑わいを取り戻すためには、まちなか居住の推進を図ることは極めて重要な取り組みとなります。居住人口の増加は経済活力の向上のみではなく、人口減少・少子高齢化の流れの中でのコンパクトなまちづくり(コンパクトシティ)を進める上でも必要不可欠です。

今後、まちなかの居住人口を増やすためには、生活者の視点から暮らしやすい生活空間の整備を進めるとともに、ニーズに対応した住宅供給をする必要があります。また、高齢化を考慮すると、車に依存しない生活利便性の高いまちなかでの居住が高齢者世帯の新たな選択肢の一つになることも重要です。

#### ② 商業の活性化

まちなか居住者が増加しても、まちなか自体に魅力が無ければ賑わいを取り戻すことはできません。地域住民にとってまちなかは医療・福祉・行政などのサービスを受けたり

#### ③ 地域ブランド戦略による地域活性化

現在は地域間競争の激化により、地域の独自性を発揮しなければ生き残れない時代になっています。苦小牧においても、地域内外から価値のあるものと評価され、「選ばれたまち」を目指すことが必要です。そのため地域の個性や価値を明確にし、地域の魅力を上げて行かなければなりません。

#### ④ 公共交通の利便性の向上

今後、地域の成長戦略として「地域ブランド戦略」を掲げ、観光客・ビジネス客などによる交流人口を増やすことにより、地域活性化へつなげていきます。

ない状況にありました。これからは、まちづくりを構造転換し、多方面からのまちなか再生に取り組みます。まちなかは商業以外にも居住・さまざまな公共施設などの機能が集まっており、まとまった市民サービスを提供する場です。また、少子高齢化が進展する中で、高齢者や子どもに優しく、利便性の高いまちなかを目指していく必要があり、その要素の一つとして、商業を位置づけて行く事が重要になります。今後は人口減少・超高齢社会に向け、まちなかを軸にしたコンパクトなまちづくりを目指していきます。その基本計画として、「まちなか再生総合プロジェクト(案)」を発表し、来年度、市民参加により市民や関係者との議論を深め、まちなかに人々があふれ、賑わいのある苦小牧を目指します。

